

当報告の内容は、報告者の著作物です。  
Copyrighted materials of the authors.

「モンゴル諸語の言語変容：内的要因と外的要因」

(2018年度第1回(通算第1回)研究会)

Synchrony and Diachrony of Mongolic Languages: Internal and External Factors (The 1st meeting)

日時：2018年6月30日(土)

Date: 30th Jun. 2018

場所：AA 研マルチメディア会議室 (304)

Venue: Room 304 (Multimedia Conference Room), ILCAA

Language: Japanese

今回の研究会は本研究課題の第1回目として開催された。まず、出席者それぞれの顔合わせ・自己紹介の後に以下の順で研究会を進行した。

#### 1. 山越康裕 (AA 研) 「趣旨説明」

本研究課題の目的とその背景について、昨年10月に開催された共同利用・共同研究課題審査会の資料をもとに出席者に説明した。具体的には1) モンゴル諸語の変容に関する研究活動の遂行、2) モンゴル諸語データベースの構築・拡充という2点に重点を置き、モンゴル諸語研究のネットワーク構築に寄与していくことを目指す。

#### 2. 栗林均 (AA 研共同研究員, 東北大学)

「モンゴル語データベースにおけるモンゴル文語の扱いについて」

モンゴル語、モンゴル諸語のデータベースに関連して、モンゴル文語の電子化データを作成、利用する際に生じる主要な問題について、現状の問題点とその背景を整理したうえで考察した。具体的には、モンゴル文語のローマ字転写方式の歴史を確認し、それに関連したモンゴル文字の文字コード (UTF-8) に見られるいくつかの重大な欠陥・問題点について、報告者がこれまで構築してきたデータベースにおいて経験してきた問題をふりかえりつつ整理した。

#### 3. 山越康裕・児倉徳和 (AA 研)

「AA 研におけるモンゴル諸語関連データベースの構築状況」

本研究課題に関連し、現在 AA 研にて構築されている以下のモンゴル諸語関連のデータベース・ツールについて紹介した：

##### 1) モンゴル文語・満洲文語辞書の電子化利用に関する研究 (栗林均・町田和彦)

-<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/staff/hkuri/project.html>

-[http://irc2010-server.aa.tufs.ac.jp/FullTextSearch/\\_20.html](http://irc2010-server.aa.tufs.ac.jp/FullTextSearch/_20.html) 『蒙漢詞典』ほかの全

## 文検索

-[http://irc2010-server.aa.tufs.ac.jp/FullTextSearch/\\_21.html](http://irc2010-server.aa.tufs.ac.jp/FullTextSearch/_21.html) 『三合切音清文鑑』『増訂清文鑑』『Nishan Saman Bithe』『清話百条』『清語老乞大』の全文検索

-<http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/project1/kdic/list?groupId=18> 清代満洲語の辞典5種類の見出し語および本文をローマ字転写で検索するデータベース。

-<http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/p01/> 『蒙漢詞典』モンゴル文字検索用データベース

-<http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/p02/> Цэвэл, Bawden などキリル文字表記モンゴル語辞典（モ-モ、モ-英、モ-日、日-モ）をキリル文字で検索するデータベース。

### 2) モンゴル諸語対照基本語彙（山越康裕）：構築中

-<http://mongolicbv.aa-ken.jp/index.htm>

### 3) 『蒙古語族語言方言研究叢書』データベース（児倉徳和）：構築中・未公開

-構築中につき URL は非公開

### 4. 総合討論および今後の方針についての検討

以上のデータベース関連の報告をふまえたうえで今後の方針について再確認し、次回研究会の内容について検討した。また、本研究課題に関連する Web ページも同日公開した。基本的にはメンバー間の情報交換用のものではあるが、有益な情報も含むことから一部はオープンにしている。URL：<https://sites.google.com/view/ilcaa-mongolic/>

文責：山越康裕